

活動の様子報告書

団 員 名	NPO 法人東北の造形作家を支援する会（略称：SOAT）
活 動 年 月 日	令和 2年 10月 10日（土）～ 12月 12日（土）
支 援 の 種 別	<input type="checkbox"/> 職場見学 <input type="checkbox"/> 就業体験 <input checked="" type="checkbox"/> 講師・指導者の派遣 <input type="checkbox"/> 場所・物品の貸出
受 入 団 体 名	（児童・生徒 名, 先生 名）
活 動 の 概 要 ※ 文字種, 文字大きさ等は自由です。(以下同じ)	<p>ワークショップ名：坪沼八幡神社探検ワークショップ 日時：10月10日～12月12日まで 計8回 場所：坪沼八幡神社探検（仙台市太白区坪沼） 実施対象：榴岡児童館、新田児童館、成田小児童クラブ 参加児童人数：各回20名 / 総数160名</p> <p>1. 概要 (1) 目的 仙台市太白区内にある野山の自然豊かな環境で直接自然と触れあいながら天然の木をノコギリで切り倒したり、その木材を使って自分たちの遊び道具を作ったりする。釘を打ったり、どうやったら遊びの道具が作れるかを考えたりすることで創意工夫するという態度の形成を促す。また、自然の中での活動を通し、危険とは何か安全とはどういうことかを体験的に学ぶ機会を与える。さらに、一連の遊びを通して学年の違う子ども同士のコミュニケーションの促進を図るとともに責任感や友情、団結力などの形成を期待する。</p>

【活動の様子】

(2) 主な具体的内容

バスで坪沼地区に到着後、田の畦道を歩いて坪沼八幡神社の長い石段まで行く。石段 100 段以上あり、急勾配であるが、子どもたちが声を掛け合い全員、上まで登り切る。途中の畦でカエルやトンボ、バッタなどを捕まえるのに夢中になる男子もいて、虫かごを持参する子どももいる。

神社の境内裏の山の散策からスタートし、漆の木について学んだり、ホコリダケを探したり檜の枯れ枝を拾ったりして散策を楽しむ。山を下りると今度は昔の館跡を探検する。指導者がその館跡について説明し、空堀に案内する。そこをロープ 1 本を頼りに下り、また登る。低学年の子どもは不安げに下るが、高学年や、同学年の励ましの声に頑張っ下りる。全員が堀から上がり終わると田畑の見渡せる畑脇の小道を歩き、檜の山へ移動する。ここでは 10 メートル以上もある檜をのこぎりで切り、参加者全員でロープを引いて木を倒す。倒した木は枝払いや遊び道具の材料とする。1 年生ものこぎりを使って 20 分も 30 分も諦めないで切る。そうやって切った木材で今年はオブジェやシーソー、ベンチができた。去年、おととしと作り繋いできたアスレチックの修理もある。子どもたちは目を輝かせ、さび釘を抜いて打ち直したり危険な部分がないか点検したりする。中には手作りブランコや綱登り、ターザンロープで遊ぶ子どももいる。友達に誘われて初めて 木登りに挑戦する子どももいる。

今年はコロナウイルスの影響で実施できなかったが、昨年度までは農家さんの支援をいただきサツマイモの苗植え、枝豆や白菜、大根なども植え、その生育を絵日誌にまとめた。スーパーで売っている白菜とは違うことに驚く子もいる。白菜はどうやって収穫するか、大根はどうやって抜くか、掘るのか、聞いてもわからない。だから実体験が貴重。

コロナ禍で今年は実施できなかった蛍鑑賞会。午後からの活動として平家琵琶の生演奏を聴いてから夜の田へ蛍見学に出かけた。真っ暗な夜の怖さを実感した子どもも多かった。

2. 成果・効果

- ・自然との触れ合いに関しては虫や草、木、山の匂いまで体験させることができた。檜の切り株から「いい匂いだ」という子どもが多く、バッタやカエルを捕まえて喜ぶ子どもも多かった。
- ・檜の切り倒しでは中高学年生が先輩としての頑張りを見せ、倒す場面では一致団結して木を倒すことに 集中してロープを引いた。「もうちょっとだ」「せーの！」と自発的に声を上げる子どもも多かった。中には 自分たちが後ろを引っ張るから 1 年生は前に並んで、などといつもととは違う面を見せる子どももいた。
- ・空堀下りや木登りなどで、普段はおとなしい子どもが周りの声援を受けたり、誘われたりして勇気を出して頑張れるという場面もあった。
- ・散策中に木の根に足が引っかかり転ぶことで歩き方を注意するようになったり、釘を打ったり、のこぎりを使ったりという場面でなにが安全かを体験的に学んだ。
- ・子ども同士が声を掛け合い励まし合ったり、高学年生が低学年生の面倒を見たりする場面がいろいろ見られた。
- ・木材を切ってから使い道を考えていた子どもたちがいたが、丸太の両端を切り株に固定してみんなが座れるベンチになった。引き抜いて曲がった釘を捨てるのがもったいないと考え、切り株に打って「おじいさん、おばあさん」のオブジェを作った子もいた。
- ・普段の遊びはゲームで、必要なのは指しかないが、自然の中での遊びは体全部、五感すべてを使って行う活動であるということが子どもたちの様子から知ることができた。